

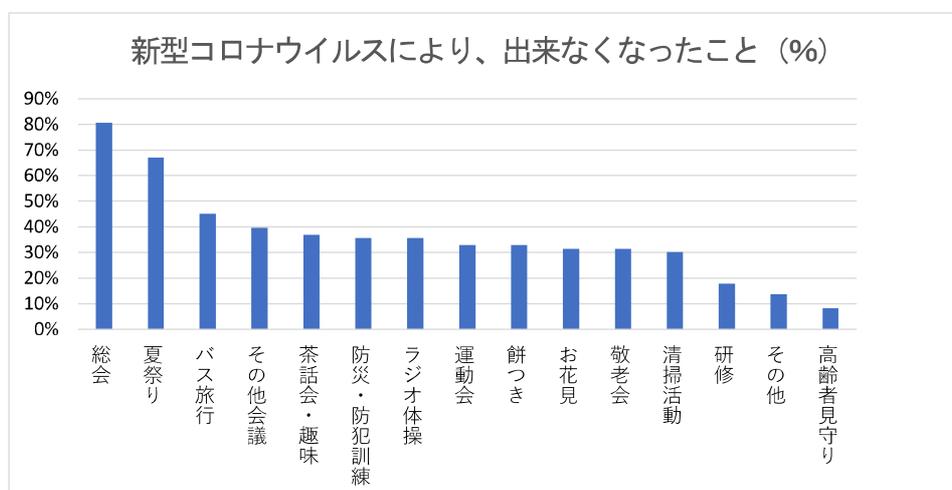
自治会の新型コロナウイルス対応に関するアンケート・レポート

2020年12月

神戸市自治会連絡協議会／神戸市コミュニティ相談センター

新型コロナウイルスはコミュニティ活動にも大きな影響を及ぼしています。皆様の地域でもいろいろとご苦労をなさったり、工夫をなさったりしておられることと存じます。

神戸市自治会連絡協議会では、2020年10月に当会の各区役員の皆様をお願いして、新型コロナウイルスにどのように対応されているかというアンケート調査を行い、73名の自治会および自治連合会長様からご回答をいただきました。

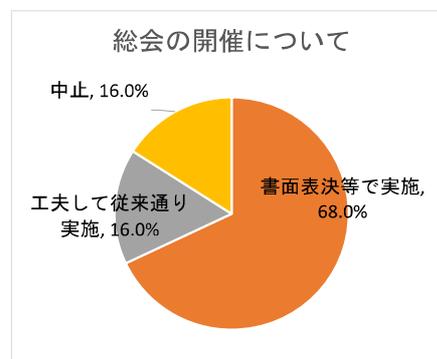


■新型コロナウイルスで出来なくなったことは？

新型コロナウイルスは、大勢が集まり3密が懸念される行事に大きな影響を及ぼしました。81%の自治会が「総会」が出来なくなったと答えました。「夏祭り」が出来なかったと答えたのは67%、それに「バス旅行」(45%)や「その他会議」(40%)が続きました。

■総会と役員会開催は？

総会は「書面決議」を採用、もしくはこれに準じる形で、集合せずに実施したという記述が大半を占めました。役員会開催は一定期間中止または回数減、参加人数を絞り3密対策を行ったうえで実施したという記述が大半でした。



■高齢者への対応は？

子どもや高齢者対象の行事も中止となりましたが、高齢者に対しては様々な配慮がなされたようです。

- ・「高齢者に対して、自治会役員や民生委員などで協力して声掛けを行っている」

- ・「敬老の日のお祝い配布時に声掛けをした」
- ・「敬老会は少人数でおしゃべりをして弁当を持って帰ってもらった」
- ・「よろず相談窓口を設置した結果、一人住まいの高齢の女性より、一週間ぶりに話が出来たのがうれしかったという声を聴いた」との記述がありました。

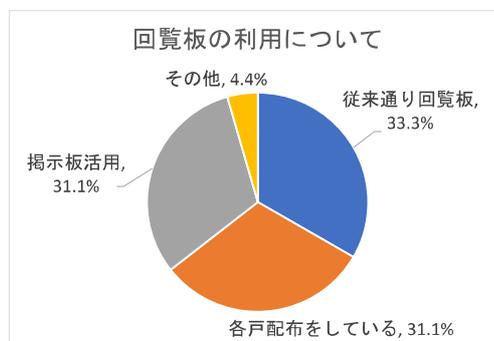
■集金は？

集金については、「会費の集金は日時の設定と封筒に入れて手渡す方法を取り、相手と言葉を交すことを少なくした」や「マスクをし、2mの間を開けて集金をした」など、ソーシャルディスタンスに配慮して集金した様子がかがわれました。また、「銀行振込や銀行引き落としを導入している」「集金時期を例年とずらした」という回答もありました。

■情報伝達は

回覧板による情報伝達がこの時期難しくなっていることで、掲示板を活用し、重要なことについては全戸配布するという自治会も増えているようです。

ネット活用については、委員の連絡はLINEを使っているという記述もありましたが、一方で、高齢者が多く、オンラインは難しい、従来メディアで良いという意見も多く見られました。



■不安に思っていることは？

不安に思っていることの一つは、家にこもることによって、高齢者の心身の健康が心配。もう一つは、住民間の交流の場がなくなることで、コミュニティが希薄になることへの心配という声が多く聞かれました。地域交流を元の状態に戻せるかどうか心配だという声が上がっており、現実にゴミのマナーが悪くなっているという記述も見られました。

■工夫したことは？

コロナ対策の工夫としては、前述の「自治会館閉館中に役員が交代でよろず相談窓口を開設した」という記述や「3密を避けるために会議等を2回に分けて開催した」、「所有の公会堂のスペースを広げる工事を行った」という記述もありました。活動が難しいこの期間に「ふるさと検定を実施予定」という地域もありました。「コロナ対策をしながら、2ヶ月に1回の連合自治会正副会長会議で、コロナ問題、ゴミ、ベトナム、猫問題などを検討した」など、前向きな記述も多く見られました。

地域には自治会だけでなく、ふれまち、婦人会、老人会、民児協、青少協の団体があるため、協力して対応しているとの心強い記述も見られました。

以上はアンケートの主要な部分の抜粋ですが、さらに詳しい内容をお知りになりたい方はコミュニティ相談センターまでお問い合わせください。